

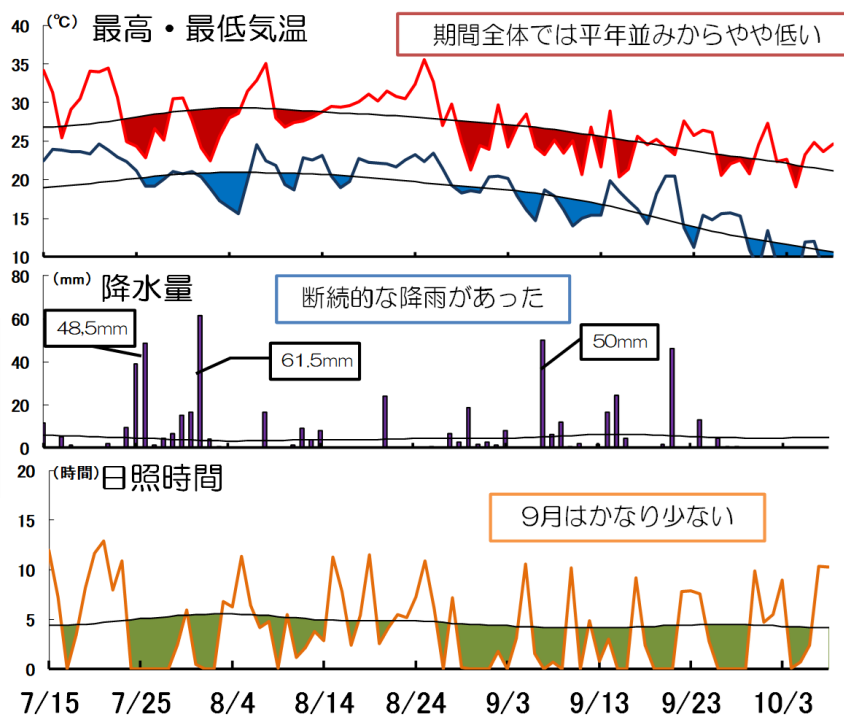
大豆栽培技術情報

令和8年 一第2号—

令和8年10月20日発行
宮城県登米農業改良普及センター
TEL: 0220-22-6127



1. 7月15日～10月9日の気象（アメダス米山）



		8月			9月		
		平均気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)
上旬	本年値	23.2	45.5	82.5	21.2	28.0	80.0
	平年値	24.3	54.6	32.4	22.0	42.9	48.4
	平年差・比	-1.1	83%	255%	-0.8	65%	165%
中旬	本年値	24.5	51.1	21.5	20.0	20.3	50.5
	平年値	23.9	49.8	36.2	20.2	42.5	60.3
	平年差・比	0.6	103%	59%	-0.2	48%	84%
下旬	本年値	24.1	46.6	53.5	19.0	36.0	64.5
	平年値	23.1	52.1	47.3	17.7	55.0	49.2
	平年差・比	1.0	89%	113%	1.2	65%	131%
月	本年値	23.9	143.2	157.5	20.1	84.3	195.0
	平年値	23.7	156.5	115.9	20.0	130.0	157.9
	平年差・比	0.2	92%	136%	0.0	65%	123%

- ・気温は、期間中は平年並みから平年よりやや低く推移し、平均気温は平年より8月上旬に1.1℃低く、9月上旬に0.8℃低くなりました。
- ・降水量は、7月下旬から8月上旬にかけて断続的な降雨があり、7月26日は48.5mm、8月1日は61.5mmの降雨が観測されました。また、9月も降雨が続き、9月7日には50mmの降雨が観測されました。
- ・日照時間は、平年を下回る日が多く、9月は平年と比べて65%となりました。

2. 管内の大豆の状況

表 生育調査結果（9月1日現在）

		播種期	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	栽植密度 (本/㎡)	開花期
ミヤギシロメ (中田町)	本年	6/16	87.2	14.7	2.3	12.6	8月10日
	前年値	6/18	99.2	14.8	1.5	14.7	8月10日
	平年値	6/19	70.5	15.0	2.5	12.9	8月11日
【参考】すすみのり (登米町)	本年	6/18	65.8	10.8	2.2	10.3	8月6日

※平年値は、過去5か年の平均値

- ミヤギシロメは主茎長は平年より長く、主茎節数と分枝数は平年と同程度となっています。
- 9月末ごろからすすみのり、タチナガハ、10月に入り、ミヤギシロメで葉の黄化が見られています。落葉期は10月下旬頃と見られ、完全落葉から15～25日後が成熟期、成熟期から10日後以降がコンバイン刈取開始時期の目安ですが、刈取時期の最終的な判断は、茎水分を見て行うことになります。
- 管内全体では、6～8月にかけての長雨で発芽や生育不良、それに伴う播き直しや生育の停滞が見られ、生育量が不足しているほ場も見られます。
- 管内のミヤギシロメで、莢に紫～黒っぽい着色が見られる株がありましたが、これはここ最近の冷え込みによる反応と考えられます。また、子実への着色は確認されませんでした。



3. これからの栽培管理

(1) 収穫準備

- 茎水分が高い、または果実がついている雑草（タデ類、アメリカセンダングサ、イヌホオズキ）、青立ちしている大豆株は汚粒の原因となるため、収穫前に抜き取りしましょう。



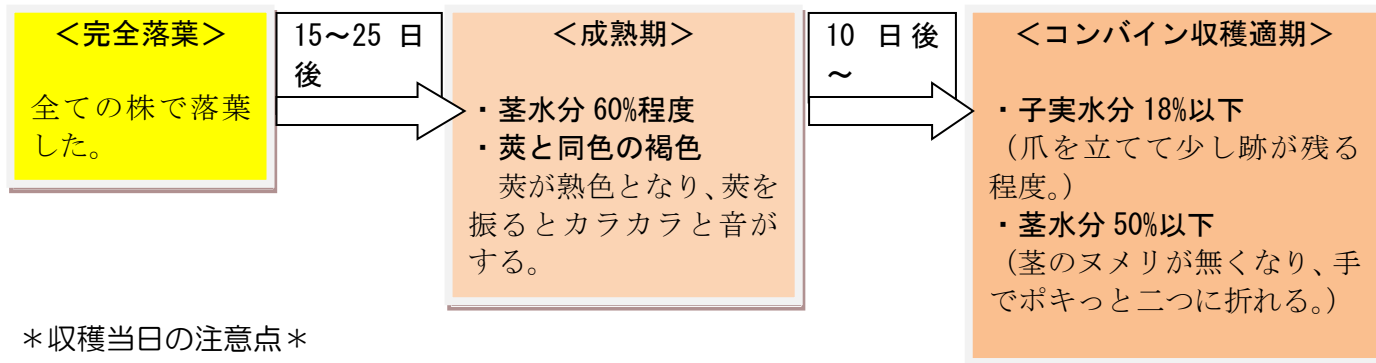
イヌホオズキ



青立ち株

(2) 適期収穫…穀粒損失・損傷、汚粒の発生による収量・品質低下を防ぎましょう

- ・適期収穫の判定は、大豆子実水分・茎水分がポイント。
- ・子実水分が高いと「つぶれ粒」が、低いと「裂傷や砕粒」などの損傷粒が多くなります。収穫時の穀粒水分（15～18%）を確認しましょう（爪で傷をつけてみるなど。表-2 参照）。
- ・茎水分が高いと、茎汁等によって汚粒の原因になります。

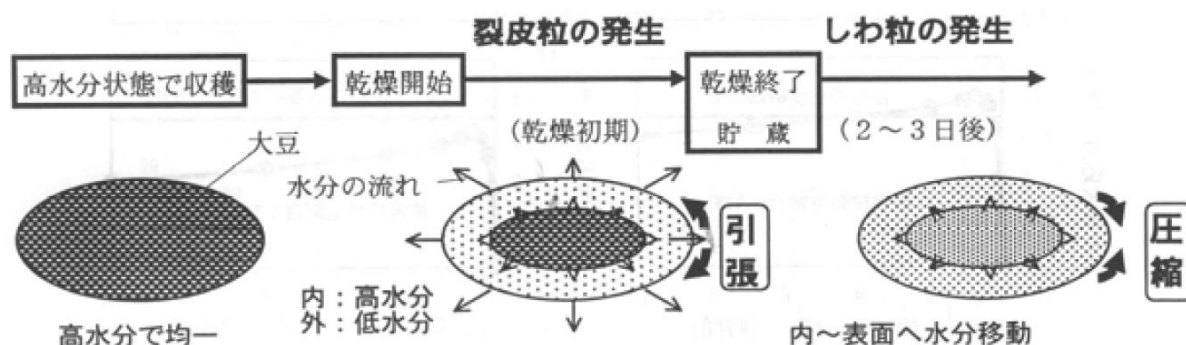


収穫当日の注意点

- ・前日及び当日に降雨がない日を選ぶ。
- ・収穫は露のある時間帯を避け、10～16 時ごろに収穫する。
- ・土を巻き込まないよう、刈高は 10cm 程度に調整する。
- ・アレチウリ、オオオナモミ、帰化アサガオ類等難防除雑草の発生ほ場、ダイズシストセンチュウ、土壌伝染性病害の発生ほ場は、伝播のリスクを避けるため最後に刈り取ることとし、ほ場移動時には作業機の洗浄を行って、汚染土壌を除去する。

(3) 乾燥…高品質な大豆に調製しましょう

- ・大豆は粒が大きく、米のように殻がついていないため、子実表面は水分が下がりやすく、子実中心部から表面には水分が移動しにくい特徴があります。
- ・そのため、急激な乾燥はしわ粒、裂皮粒の発生を招きます。



乾燥時の注意点

- ・子実水分 18%以上の場合は、常温で通風し水分 18%以下になってから温度をかける。
- ・子実水分 18%以下の場合の乾燥温度は 30 度以下とする。
- ・乾燥後の子実水分は 13% 程度に仕上げる。
- ・循環式乾燥機の場合、過度のローテーションは剥皮粒、割れ粒を増加させるので、1 日 1 回ゆっくり確実にを行うようにする。

○コンバインを点検する時は必ずエンジンを停止しましょう。
○農作業時の事故には十分注意しましょう！
慣れた作業でも慎重に！